保育学生を対象とした Teacher Training の効果検証 (1)

量的な指標における変化の観点から

○松田侑子¹・濱田祥子²

(¹弘前大学・²比治山大学)

キーワード: Teacher training, 効果検証, 保育学生

Verification the effects of teacher training for childcare students (1)

Yuko MATSUDA¹ and Shoko HAMADA²

(¹Hirosaki University, ²Hijiyama University)

Key Words: Teacher Training, effect verification, childcare students

目 的

保育者(幼稚園教諭・保育士)は、問題行動のある子どもへの援助を担うキーパーソンとなりうる立場にありながらも、支援や対応を手探りで行っているという現状がある(小保内, 2013)。こうした問題の背景として、養成校での教育において、保育の場で障害児に接する際の具体的な対応法が十分教えられていないことが指摘されている(小林他, 2001; 望月他, 2001; 小川他, 2010)。

これを踏まえ、本研究では、保育学生を対象として、Teacher Training(以下、TT)を試行し、その効果について検討することを目的とした。TTとは、親を対象とした、発達障害を持つ子どもに対する治療的な援助であるペアレント・トレーニング(Parent Training)の、教師版である。TTで扱う内容は、子どもへの基本的な関わり方の枠組みを提供する点で有意義であると考えられ、保育スキルの多様化、行動変容に関する知識の習得、保育者としての自信や志望にも影響することが予想される。

方 法

実習を控えた2017年12月—1月にかけてTTプログラムを実施し、その事前(Time1)、事後(Time2)の2時点において質問紙調査を実施した。TTプログラムは5回のセッション、各回1時間半であった。行動療法における基本的な考え方、行動の分類、ポジティブな注目をするスキル・注目しないスキル・指示するスキルに関する内容で構成した。

調査対象者: 中国地方にある私立の四年制大学1校に在籍する大学生52名である(男性2名、女性50名)。学年の内訳は、2年生26名、3年生26名である(平均年齢19.92歳±1.55)。各学年ごとにランダムに介入群と統制群に割付した。

調査項目: ①保育スキル: 養育スキル尺度(三鈷, 2008)を使用した。これは、幼児期の子どもを持つ親の養育スキルを測定する尺度である。今回は「物的報酬」「注目・関与」「援助的

コミュニケーション」「不適切な行動の無視」「きげんとり」の下位尺度を使用した。尚、文言において保育者の場合にそぐわない項目は表現を修正して用いている。

②保育者効力感: 保育者効力感尺度(三木・桜井, 1998)を使用して、保育における自信を測定する。

③学習理論に基づいた知識・理解の程度: Knowledge of Behavioral Principle as Applied to Children 日本語短縮版(志賀, 1983)と教師用応用行動分析チェックリスト(小関他, 2010)の中から、本研究で実施したプログラムに相当する24項目を抜粋して用いた。

④保育者志望度: 「私は、保育者になりたい」という1項目7件法を用いた。

結果と考察

Time2の各変数の得点からTime1の得点を差し引いた変化量を算出し、独立したサンプルのt検定を行った(Table1)。その結果、保育スキルに関しては、「不適切な行動の無視」で群間における有意な差が認められた($t(33.61)=2.18, p<.05$)。つまり、介入群において、不適切な行動への注目を除去するスキルについて理解されたといえる。また、行動変容に関する知識・理解の程度を表す正答数においても群間における有意差が認められた($t(47)=3.28, p<.01$)。介入群において、行動変容に関する基本的な知識がTTを通じて身についたと考えられる。

他方、TTの内容を鑑みると、保育スキル、特に援助的コミュニケーションや注目関与において群間差が認められることが予想されたが、今回の結果では見出されなかった。ポジティブに注目するスキルは、比較的現場でも使用しやすいと考えられるため、実習前にいずれの群でも意識化されるのかもしれない。他方、「不適切な行動の無視」はTTを通して初めて耳にするような内容であったことが予想されたため、介入群でのみ理解が進んだものと思われる。

(MATSUDA Yuko & HAMADA Shoko)

Table1 各変数における変化量の群間差

		介入群		統制群		t 値
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
保育 ス キ ル	物的報酬変化量	1.62	2.35	1.23	2.69	.55
	援助的コミュニケーション変化量	1.08	3.40	1.15	2.74	-.09
	不適切な行動の無視変化量	2.04	4.06	.15	1.71	2.18 *
	注目関与変化量	1.08	4.52	.96	2.13	.12
	きげんとり変化量	.35	2.68	1.23	3.01	-1.12
知識・理解の正答数変化量		2.88	3.23	-.08	3.09	3.28 **
効力感変化量		2.19	5.41	.23	4.22	1.45
保育者志望度変化量		-.53	1.24	-.35	.94	-.62

* $p<.05$, ** $p<.01$